

1. モニタリング概要

第1回 2007年8月12日 参加者10名確認種94種

第2回 2007年11月11日 参加者4名確認種89種

第3回 2008年3月30日 参加者7名確認種68種

各回とも、午前8時30分より、2時間程度植物の種名を確認しながら歩く。

第1回は3グループに分かれて、野川側法面、底面、ハケ側法面に分かれて行ったが、第2,3回は全員で一緒に歩いた。

その場でわからなかったものは、写真、標本などで、持ち帰って調べた。

確認種数は全体で139種うち53種が帰化種である。

ただし、植物の同定は難しく、すべてが正確とはいえない。

帰化種についても、図鑑によって異なる。

☆別途資料を用意。希望者に配布。

2. モニタリングの結果について

・もともとは全体が日当たりのよい単調な空間であるが、微妙な日当たりの差、土の湿り気の差、踏圧の差等をかぎ分けるように、いろいろな植物が生育している。更に、田んぼの周辺にはタイヌビエ、スカシタゴボウ、タカサブロウなどの水田雑草が見られた。

・2002年の調査の時、見られたミゾコウジュは見られなかった。

・外来生物法で指定されている特定外来生物としては、どじょう池のオオフサモ、法面のアレチウリがある。田んぼのアゾラに関しては多種あるアゾラ属の中には在来絶滅危惧種のオオアカウキクサや特定外来生物のアゾラ・クリスタータもあるが、専門家でないと同定は困難とされている。

・草刈除外地においても、利用圧（われわれを含めて）の影響は大きい。

3. 感想

それぞれの植物が適地を見つけて、さまざまな困難と闘い、お互いにしのぎを削り、利用しあい、子孫を残そうと生きていることを強く感じました。

植物の名前はその植物と人とのかかわりをしめしています。植物の名前を調べるということを通して、人と自然のかかわりを感じられる楽しいモニタリングをめざしています。

今年度も4回の調査を予定しています。どなたでも参加できます。